

## 第2次稲敷市総合計画基本計画に関するタウンミーティング意見交換要旨

出席：算市長、高山副市長、山本教育長、政策調整部長、教育部長、総合計画審議会会長、政策企画課員4名、秘書広聴課員4名

### ■江戸崎地区

実施日時：2019年12月8日（日） 10：30～12：00

参加者：16名

場 所：江戸崎公民館

- 温水プールを新利根庁舎跡に建設することに対して成田空港からの支援はどれくらいあるのか。  
→新利根地区なら成田の支援が受けられることとなっているが、未だ成田空港との上層部と調整中である。
- プールだけではなくそのほかの多目的スポーツ施設も含めて建設してほしい。  
→子供が使うプールだけでなく高齢者の健康増進やスポーツ施設として利用できるように検討している。
- 毎年水害が発生しているが、地下の電気設備が入ると思うが、市としては高いところに発電機をあげるなど事故が生じる前に対策を検討して欲しい。  
→新設する桜川小学校は避難場所を考えて高台に建設している。
- 未来を拓く地域活性化でインバウンドをやっているが、大杉神社や牛久大仏など稲敷市には国際的にも文化的価値があると思う。京都などのゴールデンルートだけでなく稲敷市は、つくば市と成田空港の間にあるためインバウンドに力を入れていくべきである。ニセコ町のように世界に発信するポテンシャルが稲敷市にはある。霞ヶ浦や利根川がある。日本の伝統的な農村地帯として世界に発信していくべき。文化財をいかしたまちづくりを県と連携して取り組むべき。
- 稲敷市と美浦村を含めてインバウンド観光に取り組んでどうか。稲敷市と美浦村には歴史的な文化財が多くあり世界にアピールしていくべき。
- 江戸崎工業団地への企業誘致はどのような企業を検討しているのか。  
→出来るだけ市内で雇用が発生する企業と考えている。
- 稲敷市には独居老人が多く、孤独死が生じるとすごく大変である。公共交通は、買い物だけでなく病院に通えるようにしないといけない。買い物に来ているおばあさんは2時間をかけて買い物に来ている。病院に通院するのにタクシーを利用しなければならない状況にある。車に乗れない高齢者が住みよいまちにしてほしい。  
→買い物のためだけでなく、病院への通院に繋げていければと考えている。阿見町や龍ヶ崎市の大きい病院に通っている人が多いと考えている。
- 他市では市を横断した公共交通支援の取組も見られている。

- 稲敷市は介護保険と健康保険料が高い。それでは年配の人や若い人の移住者があつまらない。公共交通が悪い。市民の人がもっと関心を持っていくべきである。
- 茨城県は全国で魅力度が最下位で、稲敷市は其中でさらに最下位であると聞いている。一生をここで過ごすために、まちをもっと良くしていきたいと考えている。本日お聞きした先の計画はどれも素晴らしいものだった。しかし、これらの計画が実現して一体どれだけの人が稲敷市に残ってくれるのだろうかと感じた。先の計画だけでなく、今を守ることを大事にして、これ以上人を減らさないようにする取組も考えて欲しい。それを伝えたいと感じて来ました。
- PROJECT 5 の取り組み 1 の防災無線について自分が使っている機材の調子が悪いため市に修理をお願いしたが、ちゃんと修理されずに返された。今度は、いらないと返すつもりだ。携帯で調べれば災害時に情報が入ってくることも分かっているが、災害時にあわてながらスマホを操作することはできない。そういった市民の声についても対応してほしい。
- 先日テレビで過疎地の村での全国の教育で 1 位となっている自治体を見ました。子どもたちの勉強を地域の高齢者が面倒をみている。掛け算や足し算、割り算が不得意な子供が多いなかで、給料をもらわずボランティアで子供たちの勉強の面倒を見られるような制度を作っていただきたい  
→学校ではボランティアを募集している。新利根地区の学校でも募集をしているので是非ご協力ください。地域の人たちの力をかりながら子供たちの学力向上に取り組んでいきたい。
- えどさき笑遊館でボランティアをやっている。稲敷のかるたを使って稲敷市の PR に活用してみてもどうだろうか。子供たちにも稲敷の良さやまちの良さを考えてもらうきっかけになると思う。他市ではまちの検定などに取り組んでいるが稲敷市でもやってみてはどうかなどの意見を来訪客から聞いている。
- 稲敷市では観光客に対してまちを案内するような観光案内人などの育成をやってみてはどうか。
- 野菜ソムリエの小学生のこどもが稲敷の江戸崎カボチャを PR してくれてうれしくなりました。トマトの取り組みは PR に繋がると良いと思う。
- 柴崎地区は、飛行機の騒音で困っている。若い夫婦は子供が生まれたが帰ってこない。飛行機が飛ぶと、うるさくて、子どもが泣いてしまう。夜十時に飛行機が旋回している。このままでは柴崎地区の人口はゼロになってしまう。もう少し住民の意見を聞いてやってもらいたい。

■桜川地区センター

実施日時：2019年12月8日（日） 14：00～15：30

参加者：5名

場 所：桜川地区センター

○旧住民と新住民の繋がりについてどのように取り組んでいるか教えてください。旧住民と新住民の意識が違ってきていると感じるがお互いが連携するようなことについて市ではどのように考えているのか。

→もともと住んでいる人と移り住んでいる方で考え方をどのように融合していくかについて考えていく。地区ごとのまちづくりを、地区センターを拠点にしていこうと考えている。同じ地区に住んでいる人たちの間で連携を図りながら長期的なまちづくりとして支援していこうと市として考えている。

○公園などの整備を稲敷市ではどのように考えているのか。

→公園を市直轄で管理しているものとそうでないものに分かれている。適切な管理運営に努めていく。高齢者や若い方で公園に求めるものが違ってくる。地域の状況に応じた公園の在り方について検討していく。

○将来の人口推計に基づいて検討していくべきではないかと考えている。

→人口推計について総合計画の基本構想において人口推計やアンケート調査を行っている。今回は、基本構想を変更しないため資料には入れていない。思った以上に人口の減少が進んでいることが分かっている。今から10年後の平成41年の将来人口が3万5千人、目標人口を3万8千人と定めたが、思った以上に人口が減少している。全ての課で人口の推計に基づきながら検討を進めている。

今回の総合計画の改定は行政改革大綱とまち・ひと・しごと創生総合戦略を併せて改定を進めている。

## 第2次稲敷市総合計画基本計画に関するタウンミーティング 意見交換要旨

出席：算市長、高山副市長、山本教育長、根本政策調整部長  
、川崎教育部長、総合計画審議会会長、政策企画課員  
3名、秘書広聴課員4名

### ■新利根地区

実施日時：2019年12月15日（日） 10：30～12：00

参加者：22人

場 所：新利根地区センター

- 稲敷市は、介護保険料、水道料金が他市町に比べて高い。移住を進めるならば、生活に必要な費用を抑えるべき。
- 屋内プールは、成田空港周辺地域交付金で整備すると聞いているが、騒音対策とは言えない。滑走路に近い地域は隣接地区に対する補助があるが、隣接地区周辺においても、防音対策が必要。飛行時間の延長にともない、騒音対策が必要。
- 個々のプロジェクトに目が行きがちだが、理念や将来像を浸透させることが先である。総合計画の中に他ではやっていないものがあると、自慢したくなるまちなになるのではないか。SDGsなどの環境への配慮など。市民が自分のまちの情報を発信したくなるようになるといい。
- また、最近稲敷市にも外国人が増えている。外国から来た人も住みやすいまち、という視点もあるといい。  
→ダイジェスト版としてまとめているので、外国人への配慮などについては、基本計画の中に記載している。他の市町村と比べて際立ったものについては、市民の皆さんが他と比べていいと思ってもらえるように、ご理解いただいたうえで施策を進めていきたい。
- 屋内プール整備にあたっては、運営などを民間に委託し、サービスを高めてもらったほうがいい。  
→民間の活用についても検討していく。
- 稲敷工業団地の松山に企業誘致がされるのであれば、地元人材の採用を誘致の条件とするなど、地元雇用を確保する方策が必要ではないか。  
→地元雇用が確保されるよう、企業に働きかけていく。
- 行政の人事について、適材適所を考えて行ってほしい。
- 新住民と旧住民のコミュニケーションの問題がある。これを解決するには、区長のような地域の中を束ねる人が必要。せめて区長の任期を2年にするなど、市が主導する時期にきていると思う。
- コミュニティバスが、本庁舎から江戸崎まで来ているが、バス停へ行くまでが大変な人も多い。柴崎の住宅地の中も、バスがカバーしてくれるといい。できれば、ワゴンバスが自宅まできてくれるようになるといい。

- 総合計画の策定経過や進捗状況を、広報などで情報提供していただきたい。稲敷工業団地の松山や、東ICの話は、初めて聞いた。市民にも情報を共有してほしい。
- 障害を持っている人の働く場の確保にも力を入れてほしい。
- タウンミーティングの時間内では、資料について分からないところを説明してもらうぐらいの時間しかない。異論を主張する場ではない。意見がある場合は、市長への手紙やメールなど、別の方法で伝えて検討してもらいたい。
- みんなが住みたくなるまちづくりへの理念が伝わった。一人ひとりが積極的に参加することが必要だと感じた。今後もヒアリングなどの場を設けていただきたい。
- 防災については、先日の台風の時、不安を感じた。市長がおっしゃったようにFM放送があるといいと思う。屋内プールも避難所を兼ねているのであればいいと思う。

## ■東地区

実施日時：2019年12月15日（日） 14：00～15：30

参加者：9人

場所：あずま生涯学習センター

- 市長の思いに期待している。東地区の歴史民俗資料館は、東の資料が中心になっている。稲敷市としての資料展示スペースがあるといいと思う。  
→資料館だけでなく、市役所など、日常的にいろいろなスペースを使った展示も考えている。
- 土浦市出身で、阿見町や龍ヶ崎市に住んで、稲敷に転居してきた。稲敷市は不便だと感じる。そこに人を呼ぶのも大切だが、稲敷市を離れていかないことも大切だと思う。そのためには、コミュニティのつながりや稲敷市への誇りを持つことが必要。
- 市内でも地区によって生活圏が違う。それぞれの文化があり、それが稲敷がまとまらない印象になっている。市民が一堂に会するような場を設けて、市民の一体感を高めるようなイベントがあるといい。市内を使った駅伝大会のような、市民が選手として、応援として参加できるようなイベントがあるといい。
- ロゲイニングで、ポイントで写真を撮ってSNSにアップしてもらおうと、稲敷の情報の発信にもなると思う。
- 稲敷市には霞ヶ浦という自然の魅力がある。使われなくなった小学校を活用して仮眠所などをつくり、稲敷の自然を楽しんでもらうようにしてはどうか。（長野県阿智村では、日本一星空がきれいな村」としてガイドツアーをしている）
- 押砂地区では、以前100世帯ぐらいあったが、今は60世帯ぐらい。空き家の予備軍が多い。自分も便利なところへ移動したいと思っている。交通の便利なところや、診療所へ通いやすいところがいいと思っている。今日の施策がうまく進められることを願っている。
- 人口減少対策は大きな課題になっていると感じる。市の人口減少対策は、5年前から進められて、現在どのような成果があったのか検証しているか。その検証を生かして、今回はどのようなところがポイントになっているのか。  
→雇用、移住・定住、子育て、シティプロモーションなど色々な施策を展開してきた。その検証を踏まえて、新しい総合計画の改定にあたっている。市民協働については、さらに強化しており、地域づくりを重点プロジェクトに盛り込んでいる。子育てとしては、幼小中連携にも踏み込んでいる。
- 評価の結果はどうだったのか？  
→効果のないものは、廃止等を進めている。
- タウンミーティングに初めて参加したが、市からのメール配信で知った。参加人数が少なく、この人数では市民に伝わらない。区長に声がけをして出席してもらおうなどの呼びかけも必要ではないか。

→周知期間も短かったため、周知が十分ではなかった部分がある。今後周知方法についても検討していく。今回は年末が近く忙しい時期、というご指摘もいただいている。今後は、日程についても検討していく。

- まちづくりについてというと、普段から考えていないと、なかなか意見は出ないと思う。龍ヶ崎では、青年会議所という組織に所属していた。稲敷市にも、まちづくりを考える会のような団体が必要。
- 子ども議会では、子ども達なりに真剣にまちづくりを考えていた。継続して授業や学校教育の中で実施していくといいと思う。
- 父が年をとったので、7年前に稲敷市に戻ってきた。正直、稲敷市に対しては愛情がない。子どもから大人までが参加できるようなスポーツイベントやお祭りなどがあるといいのではないか。イベントをもう少し盛り込んで欲しい。
- 今年の台風の際、被災証明書・罹災証明書をもろう手続きをしたが、となりの地域には空き家があり、最初の台風で壊れたあとの二次被害もあった。そういった空き家は跡取りがない、所有不明者などで対応してくれる人がいない。  
→空き家問題については、所有者の権利があり、法的に難しい面もある。手続きとしては、市が代執行し、費用は所有者に請求するという手法もある。市でも緊急の課題であるという認識はしており、どのような手法がよいか、研究を進めていきたいと考えている。

## タウンミーティングアンケート集計結果

### 【全体参加者数】

江戸崎会場…16名

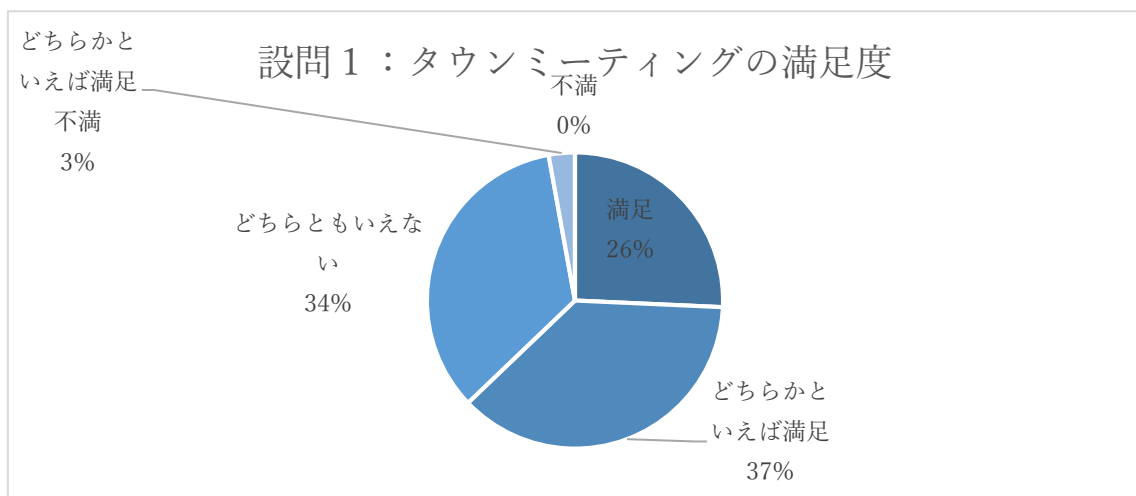
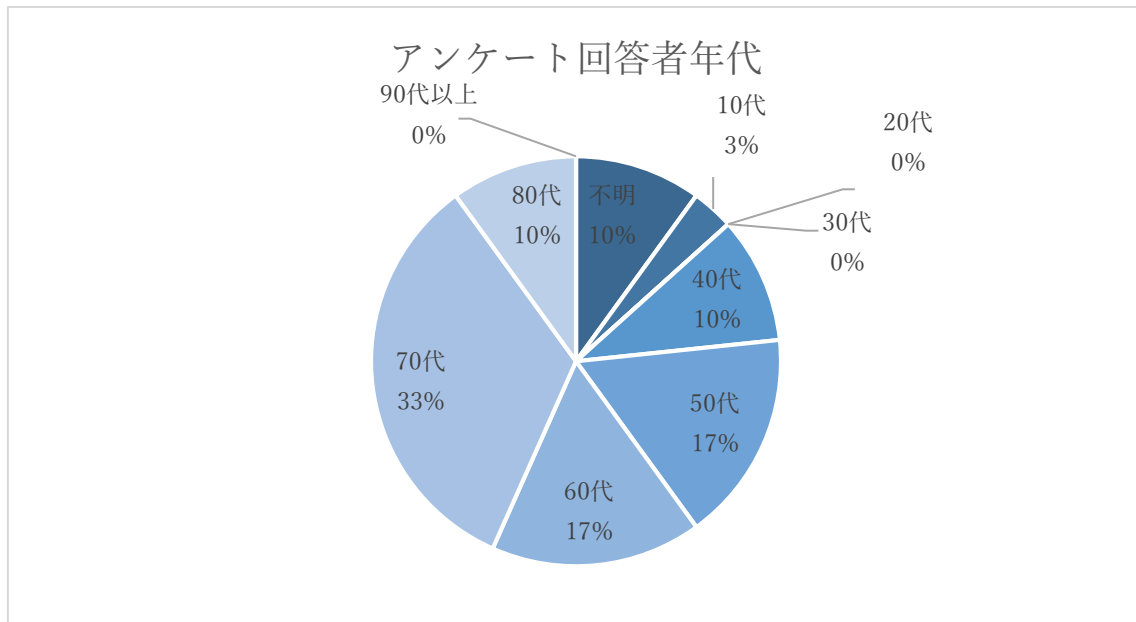
桜川会場……6名

新利根会場……22名

東会場……9名

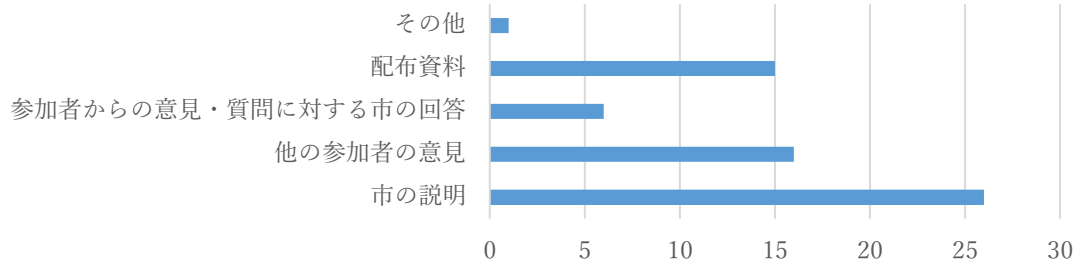
### 【アンケート集計結果】

アンケート回収枚数……38枚





設問2:タウンミーティングで参考になったものは  
(複数回答可)



設問3:参加する前と後でイメージが変わりましたか

